

10月1日(水)から国内最大級の不動産情報サイト「SUUMO」で 市内東部エリアの移住情報を強化したPRを開始

転入者の獲得に向け、国内最大の物件掲載数を誇る不動産情報サイト「SUUMO」を活用した移住PRネット広告を、10月から半年間掲載します。今回は、初めて市内東部エリアの移住情報も詳しく紹介します。

今回の取り組みを通じて、都心までの交通アクセスが良く、理想のマイホームを家計に無理なく実現できるコスパの良い住宅地としての優位性をアピールし、平成28年から続く人口の社会増が継続することを期待しています。※バナー広告例、PR内容の詳細は別紙参照



◎広告掲載概要

令和7年3月発行の「住み替えあびこナビ」と、今年初めて制作した「住み替えあびこナビ EAST 版」の2種類を基に制作しました。

広告では「東部エリアの地価が JR 我孫子駅周辺の3割程度のため、家計に優しい戸建て住宅が購入できるコスパの良さ」「成田線を使えば乗り換えなく都内へ通勤できるアクセスの良さ」などのメリットに加え、移住した子育て中の家族のインタビュー（市内東部エリアを選んだ理由と実際に暮らした感想）を紹介しています。

▼バナー広告例（東部エリア版）



▼「SUUMO」関東版

<https://suumo.jp/kanto/>



◎「SUUMO」を活用した広告の利点

広告は「SUUMO」にアクセスした東京圏（東京都、千葉県、神奈川県、埼玉県、茨城県）の在住者に表示されるため、不動産の物件情報に関心の高い方へ移住 PR 情報を提供できます。我孫子市に関心を持った方がワンクリックで市内の分譲戸建て、土地、マンション、賃貸物件など、幅広い価格帯の物件情報に簡単にアクセスできます。

また、常磐線・成田線各駅の最寄り物件が表示される仕組みとなっており、市内全域の物件も探しやすくなっています。

【問い合わせ】

我孫子市 企画総務部 秘書広報課
あびこの魅力発信室
担当：深田、奈良
電話：04-7185-2493

◎バナー広告例



◎市内東部エリア（湖北・新木・布佐）に特化した移住情報ページで PR



上段（左から）：竹内神社大祭（布佐）、湖北中央公園（湖北）、下段（左から）：小山大祭（湖北台8号公園にて／湖北）、神倉倶楽部（新木）、布佐小学校（布佐）

在住者に聞く東部エリア湖北・新木・布佐の住み心地

我孫子市の東部を走る JR 成田線の湖北駅、新木駅、布佐駅エリアは我孫子駅周辺に比べてゆったりとした環境が広がっています。そんな東部エリアの暮らしやすさを 3 人の在住メンバーをご紹介します。



湖北
片岡綾さん
湖北在住歴8年半



新木
安藤佐知子さん
新木在住歴10年



布佐
遠藤絵里香さん
布佐在住歴23年半



東部エリアの魅力

我孫子周辺エリアと比較して 2～4割オトクに住める！※

新しく住まいを購入する時に気になる土地価格。常磐線、つくばエクスプレス沿線の平均取引価格を調べてみると、湖北・新木・布佐エリアは、我孫子周辺と比べてもさらに 2～4 割程度に抑えられる※ことがわかりました。土地価格を安く抑えることができると、選択肢が広がり、家計に大きなゆとりが生まれます。

※出典：国土交通省「不動産情報ライブラリ」
（調査時期：2023年10月～2024年9月）

移住したファミリーに聞く「東部エリアを選んだ理由」



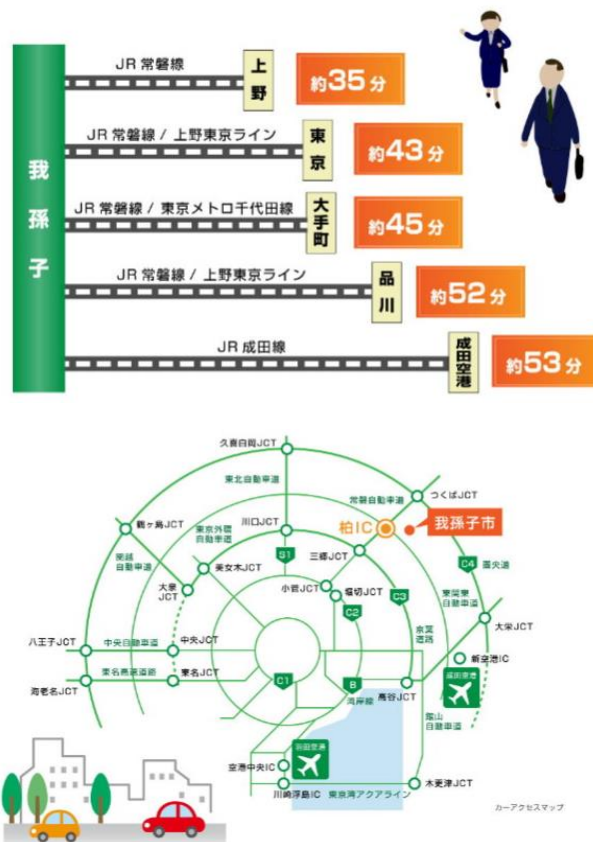
小山さんファミリー

2024年9月に南柏から湖北へ。探し始めて数カ月で駅に近い希望通りの広さの土地に巡り合い、一戸建てを新築。夫・遼斗さん（30歳）と妻・沙織さん（29歳）はともに理学療法士。2020年2月には第一子が誕生。

「駐車場は 2 台分、1 階リビングは広く、2 階バルコニーでいつでも遊べるように」「キッチン、ダイニング、リビングが一直線の縦長間取りで子どもを見守りながら料理ができればいいな」。夫婦の憧れを丸ごとかなえたのは、東部エリアの湖北でした。お互いの職場と実家に近かった千葉・南柏から住み替えたのは、「いつかは一軒家に住みたい」という夢があったから。最寄り駅からの距離はもちろん、「保育園が数カ所から選べて、小・中学校も歩いて近い」と、**将来設計も重視**したといいます。「園庭が驚くほど広くて、のびのび育っていきそうな子ども園があったのも決め手」と沙織さん。分譲地なのに**同年代の子育てファミリーも多い**そう。日差しがたっぷり入るお気に入りの新居には、太陽光発電を設置。光熱費の節約にもつながり、**大満足**の様子です。

◎PRポイント

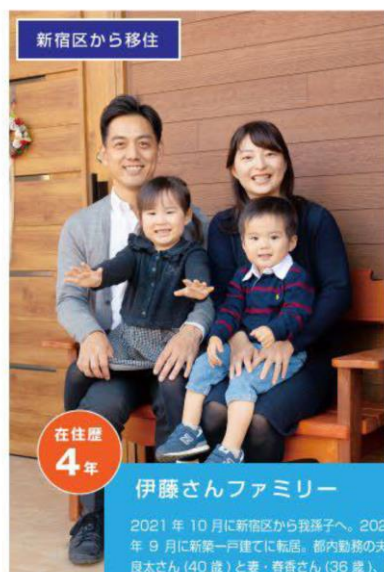
■鉄道&道路 交通アクセスの良さ(最寄り駅から市内2路線6駅周辺の物件情報を簡単に探せる)



■市内賃貸物件に移住後、我孫子を気に入リ戸建てを購入した家族の声を紹介

Interview

子育て・お試し移住の決め手は“手賀沼”
4年目には待望のマイホームを新築



妻の妊娠をきっかけに、自分が育った岐阜・長良川のような水辺で、自然豊かな環境で子育てしたいと思うようになりました。住み替え先で重視したのは、風情と手触り感のある街。神奈川、埼玉、茨城、千葉とくまなく見て、我孫子に決めました。夏の空に入道雲が映え、手賀沼が美しく、故郷の景色にも似ています。手賀大橋越しの夕日と富士山が見えたときには、自然と「あ、ここだな」と思いました。

初めての街なので、まずは賃貸マンションで暮らすことに。2LDK・25万円だった月々の家賃が3LDK・20万円弱になり、通勤時間は25分から1時間に増えましたが、行きの車内では仕事、帰りは動画を観ながらリフレッシュと有効活用。ときにはグリーン車でゆったりもできます。夏の夜は都心より涼しく、帰って来るとホッとしています。また、家探しがきっかけで、地域を盛り上げようという魅力的な人たちにも出会えました。我孫子の街は、これからまだまだ元気になると確信したことも、定住を決めた理由でした。新居の場所はもちろん、手賀沼の存在が感じられるところです。